

平成 27 年度鍼灸等研究費研究成果 要約

研究課題名	「鍼灸師・マッサージ師のための痛み学習システム」の構築
班長 氏名/所属機関	伊藤 和憲/明治国際医療大学 鍼灸学部
班員 氏名/所属機関	佐原俊作/京都府立視力障害者センター・講師 佐藤智樹/国立リハビリテーションセンター 浅井福太郎/九州看護福祉大学・助教 梅村勇介/名古屋医健スポーツ専門学校・講師 宮本直/明治東洋医学院専門学校 蘆原恵子/明治東洋医学院専門学校 齊藤真吾/平成医療専門学校・講師 内藤由規/平成医療専門学校・講師 皆川陽一/帝京平成大学・助教
成果	はり師、きゅう師、あんま・指圧・マッサージ師のための痛み学習テキスト
1. 目的	はり師、きゅう師、あんま・指圧・マッサージ師が療養費の給付が認められている疾患はすべて痛みに関した疾患であり、尚かつ慢性化しやすい疾患である。特に、近年急性痛と慢性痛の対応は大きく異なることが知られるようになったが、学校教育の中ではまだ教えられていない。 そこで、はり師、きゅう師、あんま・指圧・マッサージ師痛み治療に関して知っておく情報や事柄をまとめると共に、それを学ぶためのテキストを視力障害者・晴眼者用に開発することある。
2. 内容	痛みを理解するには、①痛みのメカニズム、②痛みの診察、③痛みの治療法、④痛みの管理・予防の 4 点について理解することが必要となる。これらの要素は、医師と医療連携する上でも大切な知識であることから、上記の 4 点について各専門分野の教科書や論文をまとめ、学習テキストを作成した。 ①に関しては、近年様々な痛みのメカニズムが明らかになっていることから、臨床で知っておくべき痛みのメカニズムについて国内外の文献をまとめ、学習教材を作成する。②に関しては、痛み患者を診察する際に必要な検査をまとめると共に、診察手順と治療法をチャート化する作業を行う。③に関しては、鍼灸以外の治療方法（薬物・運動療法・認知行動療法など）に関するエビデンスやメカニズムをまとめる。また、鍼灸やマッサージとそれらの併用についての危険因子についても解析する。さらに、生体における鎮痛のメカニズムを整理するとともに、鍼灸治療の鎮痛原理をまとめ、治療へ応用できるようにする。④に関しては、痛みの治療では、患者自身の「痛みへの理解」が最も重要な項目であることから、鍼灸師やマッサージ師が患者に指導すべき内容について情報を整理した。 なお、学習教材に関しては、テキストベースで印刷物を作成すると共に、インタ

	<p>ーネットでダウンロードできるように PDF かした。また、視力障害者への配慮として、点字資料や読み上げ機能にも対応できるように、希望者にはテキストベースで配布することも可能である。</p>
<b>3. 成果/考察</b>	<p>鍼灸師は地域において痛み患者を診察する機会が多いが、痛みは複雑であり、その対処方法は痛みの種類によっても異なる。しかしながら、痛みを正しく学習するための教材やコンテンツなどがなく、学習する機会がないため、対応は治療者個人の力量に任されており、実際に鍼灸やマッサージを受けても満足していない患者も少なくない。今後、療養費の適応範囲の拡大のためにも、鍼灸師、マッサージ師が痛みの専門家として知識を再整理する必要があり、その環境整備が急務であり、本研究により鍼灸師・マッサージ師向けの痛み学習システムの第 1 歩となるテキストが構築されたことは意義深い。今後は、このテキストをベースに、痛みに対する理解がより深まり、適切な診療を行えるために必要なコンテンツ作りに加えて、慢性痛治療に関する治療指針となるガイドラインの作成など、痛み診療に関する整備が必要となる。</p>